

平成 28年度 高松市事務事業評価表 （事中・事後評価）

事務事業名	高松国際ピアノコンクール事業					
部 局 名	創造都市推進局		課（室）名	文化芸術振興課		電話番号 2636

【事業全体概要】まちづくりの目標：心豊かな人と文化を育むまち

総合計画	政策	地域に根ざした文化芸術の創造と振興			主 体	その他	
	施策	文化芸術活動の推進			期 間	平成 25年度～平成 27年度	
	基本事業	文化芸術活動の推進			総事業費	37,162	
重点取組項目		重点取組課題 2			特定財源		
関連根拠法令等						国	
事業区分	自治事務	種 別	事中・事後			県	
事業種類	単独					市債	
					他		
					一 般	37,162	
事業の概要	高松から世界レベルの音楽を発信するとともに、地域の活性化、音楽芸術の振興、国際的な文化交流の推進などを目的として、浜松国際ピアノコンクール、仙台国際音楽コンクールに次ぎ、日本で 3 番目に創設された国際的なピアノコンクールで、4 年に一度開催されている。 コンクールが開催されない年度においても、当コンクールの審査員・入賞者のリサイクル事業や公開レッスン、地域での無料演奏会などの事業を展開し、次回開催への機運を高めるとともに、より市民に親しまれ、地域に育まれていくコンクールとなるよう推進する。						

【事業の目的と指標】

対象	高松市民	対象指標名	
		高松市の人口	
手段	県を始め、地元経済企業等が組織委員会を組織し、民間主導により、4 年に一度サンポートホール高松で国際的なピアノコンクールを開催する。	活動指標名	
		高松国際ピアノコンクール開催日数	
意図	音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図り、交流人口を増加させるとともに、文化芸術都市高松の魅力を世界に向けて発信する。	成果指標名	
		ピアノコンクール入場者数	
結果	四国で初めての民間主導による国際的なピアノコンクールを開催することにより、地域の音楽芸術の振興と国際的な文化交流が見込める。	効率指標名	
		コスト百万円当りのコンクール開催日数	

【指標値および事業費の推移】

指標名		単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標		人	426,707	427,000	427,000	409,000	
活動指標		日	19	0	0		
成果指標		人	7,180	0	0		
効率指標		日 / 百	0.75	0	0		
トータルコスト		[千円]	25,135		5,014		
（事業費）		[千円]	22,963		2,800		
（職員人件費）		[千円]	2,172		2,214		

【環境変化等】

開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
国内で 3 番目の国際ピアノコンクールで、四国では初めての本格的な国際ピアノコンクールである。	国際ピアノコンクールへの海外からの応募者は、半数近くを占めており、国際的な文化交流に寄与している。	国際ピアノコンクール自体は、国内で数少ない事業であり、また、27 年度に国際音楽コンクール世界連盟に加盟したことから、今後も注目を集めることが期待されることから、国内外からの応募者数の増加が見込まれる。	民間主導の事業ではあるが、現時点では、市民の本事業に対する関心は高いとは言えない。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
B 現段階では市による実施が妥当である 地元企業を中心とする組織委員会に参画し、市として必要に応じて負担金を支出している。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
A 貢献度が大きい 本事業の実施は、施策である「文化芸術を創造する環境づくり」を具体化したものである。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか
B 必要性は中程度 市民の関心を高める必要がある。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
A 影響は大きい マニフェストの7つの都市づくりの「創造都市づくり」の下に掲げられた具体的な施策である。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか）
A 事業のプランづくりの段階からNPO、市民団体が参加している 民間主導の組織委員会で運営されている。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる（中小程度） 民間主導の組織委員会で運営されている。なお、組織委員会や関係各団体と連携し、継続事業の充実を図ることも重要と考えられる。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか）
A 実施済み／実施する必要がなかった 組織委員会と連携をとりながら、次回高松国際ピアノコンクールの開催や関連事業の実施に向け、連携を密にするなど、現在できる範囲で見直しを行った。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか
A 目標以上に達成できた コンクールの開催がなかったため、実績値と比較することは困難だが、次回開催への機運を高め、コンクールの本来の目的達成に繋げるよう、種々取組を行った。中でも学校訪問リサイクルは、回を重ねることに開催希望校が増え、コンクールへの関心を高める点で成果を出せている。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか
B 目標どおり達成できた コンクール開催年度以外においても、学校訪問リサイクルなど、積極的に関連事業を実施した。
10. コスト縮減ができたか
D 縮減できなかった コンクールに対する市民の関心を高めるため、関連事業を行うに当たり、必要な経費を市が負担することとなった。

【一次評価】

評価区分	継続				
本事業は、世界を目指す若手ピアニストの“夢”や“目標”を育むとともに、世界の優れた音楽家との触れ合いの場を創造する国際的な芸術イベントとして、音楽芸術の振興はもとより、国際的な文化交流を図る上からも、意義深いものであることから、事業の継続が適当である。					
改革案			期待効果		
内容	市民の関心を高める必要がある。	阻害要因	コスト 削減維持増加 成果 向上 維持 低下		

【二次評価】

評価区分	継続
他市にはない本市独自の音楽芸術の振興や国際的な文化交流に資する事業であることから、引き続き事業を実施していく必要がある。	